

目 標 達 成 計 画

事業所名：グループホーム幸

作成日：令和5年7月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間	目標達成状況(任意)
1	2	地域との繋がりが希薄であった。コロナ禍により充分な外出支援が出来なかった。また、自治会長や民生委員、地域住民との繋がりを強化したい。	地域との交流について、外出するだけでなく、地区の自治会長や民生委員との交流を持ったり、地域福祉事業への参加、協力体制を作る。	利用者全員が外出支援できるようにする。運営推進委員会で民生委員との話し合い、交流を図る。自治会長との指示・連絡体制を整える。町の福祉事業を有効活用し、また参加する(認知症サポーター養成講座への参加や、レクリエーション用具のレンタル等)。	6 か月	
2		災害に対する訓練は行っているが、防災関係の有資格者が少ない。防火管理者の有資格者は2名いるが、さらなる災害対策強化ために、防災関係の研修、訓練修了者を増やす。	スタッフが地域での災害訓練、講習に参加する。事業所の災害訓練の状況を家族に説明して、安心感を持って頂く。	大木町災害ボランティア養成講座に職員1名参加する。災害関係の講習等への参加・修了人数をできる限り増やす。災害対策の状況を、ご家族が訪問された時に説明したり、お便りなどでお知らせする。	6 か月	
3		ご家族に意見、要望を反映するための意見箱をユニット毎に設置しているが、活用されていない状況である。	家族の意見箱の周知と活用。意見箱でなくとも、様々な方法で意見集約を行う。	意見箱の設置場所を、今よりも目立つ場所に変更する。ご家族が訪問された時に意見や要望を申し出しやすい対応をする。	6 か月	
4					か月	
5					か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。
注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	☐	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐	②利用者へサービス評価について説明した
		☐	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐	⑤その他()
2	自己評価の実施	☐	①自己評価を職員全員が実施した
		☐	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐	②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った(予定である)
		☐	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐	⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐	③「目標達成計画」を市区町村へ説明し、提出した(する)
		☐	④「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)
		☐	⑤その他()